

〇はじめに

遊びは、子どもの「やりたい!」という気持ちに基づいた体験です。遊びの中で子どもたちは、挑戦したり、協力したり、ぶつかり合ったり、達成したり、とさまざまな体験をします。自由で豊かな遊び体験があることで、子どもは創造性や集中力、社会性や自己肯定感など、生きていく上で必要なさまざまな学びを得ていきます。

公園は、子どもたちに一番身近な野外の遊び場。午前中は乳幼児連れの親子でにぎわい、午後は幼稚園帰りの子どもと親たち、そして放課後は小中学生と、一日を通して幅広い世代の地域の子どもの遊び場となります。と同時に親たちにとっての情報交換の場、近所の人やシニアも含め地域のさまざまな世代が集い過ごせるコミュニティ拠点、そして地域の防災拠点など、公園は地域資源としてもさまざまな可能性を秘めています。

しかし公園をとりまく課題は多く、周囲からの苦情に対応し安全性や管理を重視する中で、子どもたちの体験を広げる遊びの要素は削り取られ

る傾向があります。そして高津区内の子育てに関する調査データを見ると、これらの事情を裏付けるかのように、区内に約 130ヶ所の公園があるにもかかわらず、「野外の遊び場」に対するニーズはとて高くなっているのです。

宅地開発によって身近な場から“遊んでいい自然”が失われ、放課後の“時間”“空間”“仲間”が消えたと言われる今、外遊びを通じた子ども同士の交流は減少し、部屋でゲーム機相手に遊ぶ子どもが増えています。

「子どもたちが安心して遊ぶことのできる場」「自分で遊びを作り出すことのできる場」「親や大人が子どもを介してつながり、地域のコミュニティをはぐくむことのできる場」。ほんの少し前までは確かにあった、そんな遊び場をもう一度取り戻したい。私たちかわさき遊び場ネットでは、まちの中で子どもがのびのび遊べる場を増やしていくために、公園を有効に活用していくための資料となるよう、高津区内の公園を区と協働して調査し、現状のデータをまとめました。

<かわさき遊び場ネットとは?>

かわさき遊び場ネットは、川崎市内で遊び場づくりにかかわっている人たち、遊び場に関心のある人たちのネットワーク。都市化が進み、“遊んでいい自然”が子どものまわりから消えようとしている今、つながりあい、一緒に考えていくことで、遊び場を通して地域コミュニティの“輪”を広げていこうと、平成16年に発足しました。子どもたちがもっと自由に遊べる場、ありのままにいられる場を地域の中に広げていきたいと活動しています。